

飯田市 次期総合計画策定に向けての考え方

(平成 27 年 3 月現在)

総合政策部

本書は、庁内に設置した次期総合計画策定方針案検討委員会での検討を基に庁内的にまとめたものであり、平成27年度から着手する次期基本構想・基本計画の策定にあたり、議論をスタートさせるきっかけとなる考え方を示したものです。

本書では、基本構想とその下に位置づく計画群を一体として「総合計画」と表現しています。

概 要（本書の構成）

<前編>

1. 策定に向けた課題整理

- (1) 第5次基本構想基本計画の中間評価
 - ① 第5次の振返り（成果と課題）
 - ② 第5次の成果と課題から導かれる次期総合計画のキーワード
- (2) 地方自治法の改正について
- (3) 認識すべき課題と注意点
 - ① 右肩上がりの時代から、右肩下がり時代への移行を踏まえた枠組づくり
 - ② 将来の期待要因であるリニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通を踏まえた具体的な展開
 - ③ 飯田らしさの継承、地方分権への対応
 - ④ 「想定外」の事態への柔軟な対応力
- (4) 策定に向けた基本的な考え方の整理
 - ① 都市の将来像の検討
 - ② 計画期間の検討
 - ③ 次期総合計画の定義と3つの心構え

2. 計画の構成の検討

- (1) 3つのモデルによる計画の枠組みの検討（検討委員会）
 - ① 3つのモデルの検討
 - ② 個別計画の位置づけの検討

<後編>

1. 課題を踏まえた次期総合計画の枠組み

- (1) 基本的な考え方（ムトスの精神を引き継ぎ、さらに協働を進める）
- (2) 基本的な構成
- (3) 計画期間について
- (4) マネジメントサイクルの検討
- (5) (仮称) 戦略デザイン計画を核としたマネジメントサイクル

2. 策定の進め方

- (1) 飯田市未来ビジョンの策定
 - ① 概要「飯田市未来ビジョン（基本構想12年） ～みんなの声と力がまちになる～」
 - ② 具体的な取組項目
- (2) 具体的な事業推進
 - ① 概要
- (3) 策定体制
- (4) 策定スケジュール

(前編) 策定に向けた課題整理

1. 策定に向けた課題整理

(1) 第5次基本構想基本計画の中間評価

① 第5次の振り返り（成果と課題）

【成果】

- これまでの**第1次～第4次の成果と課題を踏まえた集大成**として展開しました。
- 時代を先取りした手法として人口目標を具体的に設定し、人材のサイクル実現に向けて「産業づくり」「人づくり」「地域づくり」に注力しました。
- 文化経済自立都市という目的を掲げ、特に自立というテーマに挑戦しました。
- 多様な主体との協働を踏まえ、現場主義による産業振興や学校との連携による地育力の展開、ムトス関連の事業など、様々な取組を進めました。
- 定性的評価から定量的評価を導入することで、客観的な事業評価に努め、説明責任を果たすべく努めました。
(議会、推進委員会評価)

【課題】

- 基本構想基本計画の推進において、政策・施策・事務事業の目的分解型の展開（課題解決に向けた取組の構造）が硬直化し、柔軟性をもった展開、あるいは事業の新陳代謝が進みにくい状況もありました。
- P D C Aサイクルにおける事業評価において、定量的評価の歪み（適切な指標設定や分析の課題）、**事業の取捨選択の難しさ等**の課題を克服できず、結果としてマネジメント機能が十分に働きにくい状況もありました。
- 役割分担による本格的な市民協働**を目指しましたが、目的や具体的な事業展開の面で市民との共有が進んだ部分もあった一方、行政の守備範囲と市民の役割が整理できていない部分がありました。
- 総合計画に書いてあるかどうか勝負どころになり、**総花的で戦略性、実行性**が課題となる傾向もありました。
- 大規模事業の管理など、財政計画等とのあり方の調整が必要となります。
- I S O、人事評価などとの関係性、組織と施策のあり方などが課題となりました。

② 第5次の成果と課題から導かれる次期総合計画のキーワード

◆イノベーション・共創

リニア中央新幹線の開通、人口減少およびこれに伴う環境変化など、地域の将来を中長期的な視点で見据えながら、自立的で持続可能な地域づくりを進めるための革新的な枠組やそれを支える柔軟な取組づくりを進めます。

◆シンプル・明快性・統合・連動

様々な構想・計画類の考え方を集約し、重点など「見える化」するとともに、総合計画、財政計画などの連動など進行管理の進化を図り、簡素でわかりやすい仕組みにより、効率性・実効性を高めます。

◆共感・協働

課題やあるべき方向性を市民（多様な主体）と共有し、各主体が共感をもって各々の役割を担いながら協働することにより解決し、公民館やムトスの精神、現場主義の考え方をさらに発展しながら、新たな協働社会をつくります。

◆分析、推計

定性的、定量的評価において、単に数値を比較するのではなく、分析・推計を強化することにより、対症療法的な視野から根治療法的な戦略展開にステップアップします。

（２）地方自治法の改正について

平成 23 年 8 月の地方自治法の改正により、**市町村に対する基本構想策定の義務付けがなくなりました。**飯田市においては、「**飯田市議会の議決すべき事件を定める条例**」において、「基本構想の策定、変更又は廃止」と「基本計画の政策施策の体系の策定、変更又は廃止」が議決事件となっています。また、「**飯田市自治基本条例**」にも、第 21 条に「市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。」としており、基本構想の策定等は条例上で規定されています。

なお、総務大臣通知により、自主的な判断により、引き続き現行の基本構想について議会の議決を経て策定することは可能とされています。

社会経済情勢の変化の激しい中にあって、**市民、事業者をはじめ多様な主体の皆さんとの協働はますます重要**となっており、こうした**協働をさらに進めるためにも、あるべき方向性をはっきりとし、共によりよい飯田市の未来を築いていく**重要性が高まっています。

（３）認識すべき課題と注意点

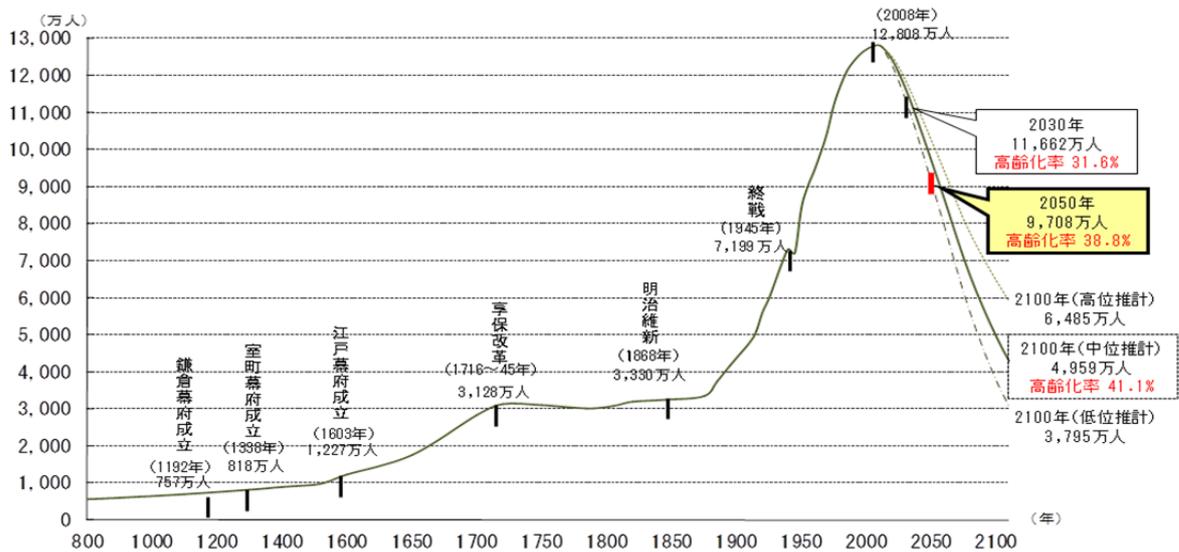
① 人口減少時代への本格的な対応

～右肩上がりの時代から、右肩下がりの時代への移行を踏まえた枠組づくり～

- ・人口減少時代を踏まえた人材のダム、人材サイクル実現への挑戦（産業づくり、人づくり、地域づくり）と地方創生への対応
- ・定住自立圏の中での飯田市の役割
- ・持続可能な地域づくりを支える力強い産業構造への転換
- ・拠点集約連携型都市構造の実現
（土地利用計画、国土利用計画飯田市計画、農振計画等）
- ・資産ストックの老朽化、公的財産の維持更新費用の増大への対応
- ・地方交付税の縮減等による財源縮小への対応

日本の総人口の推移と推計

○2008年の1億2808万人をピークに減少に転換。中位推計で2050年に9708万人となる見通し。



(出典)総務省「国勢調査」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

② リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通を踏まえた具体的な展開

- ・リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通への十分な備えとして、開通前、開通後のプラス要素、マイナス要素を踏まえた課題整理と対応が必要
- ・時代背景を踏まえた土地利用の適正な推進

③ 飯田らしさの継承、地方分権への対応

- ・地域コミュニティの活性化と多様な主体との連携、市民協働の推進
- ・環境文化都市の継承と環境やエネルギー戦略展開の強化
- ・様々な構想、計画の基本的な考え方を集約し、市民と思いを共有して協働社会をさらに進めること

④ 「想定外」の事態への柔軟な対応力

- ・防災、減災 自助・共助・公助
- ・社会経済構造の急激な変化

(4) 策定に向けた基本的な考え方の整理

① 自治基本条例の精神に基づく都市の将来像の検討

自治基本条例は、基本構想等の計画策定、政策立案及び実施に当たっては、市民主体のまちづくりを協働して推進することを目標に掲げています。その精神を踏まえつつ、市民参加（市民・事業者・団体）により、共に都市の将来像を整理し、わかりやすい形で示すことで、目指すべき都市の実現を図るために、各主体の活動を促進します。

飯田市市民憲章（昭和52年）、飯田市環境文化都市宣言（平成19年）など超長期を見据えた普遍的な方向性が示され、これにより**先進的で飯田らしい事業や市民活動**が進められています。

また、「**リニア将来ビジョン**」、「**南信州定住自立圏共生ビジョン**」など、リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通を見据えて、近年、都市の将来を見据えた将来像が描かれ、示されてきています。

飯田の語源ともなったともいわれる「**結い**」とは「多くの人との協力と役割分担により一つのことを成し遂げる仕組み」のことであり、今日の「協働」そのものです。ムトスを合言葉にしたまちづくりは、「10万都市構想（1982年）」の行動理念に「**ムトス飯田**」が掲げられ、**地域課題や分野別の課題を関係者が力を合わせて解決していくモデル**となりました。**人口減少時代への対応、地方分権の進展、公共施設の老朽化・維持管理費用の増大化、地域産業構造の大きな変化、地域コミュニティの変化と多様な主体の力**などを踏まえると**ムトス飯田の精神は将来にわたって飯田市の宝**となるものであり、これをさらに**発展させながら市民協働を進め**、飯田市の未来を創ることは、重要な視点となります。

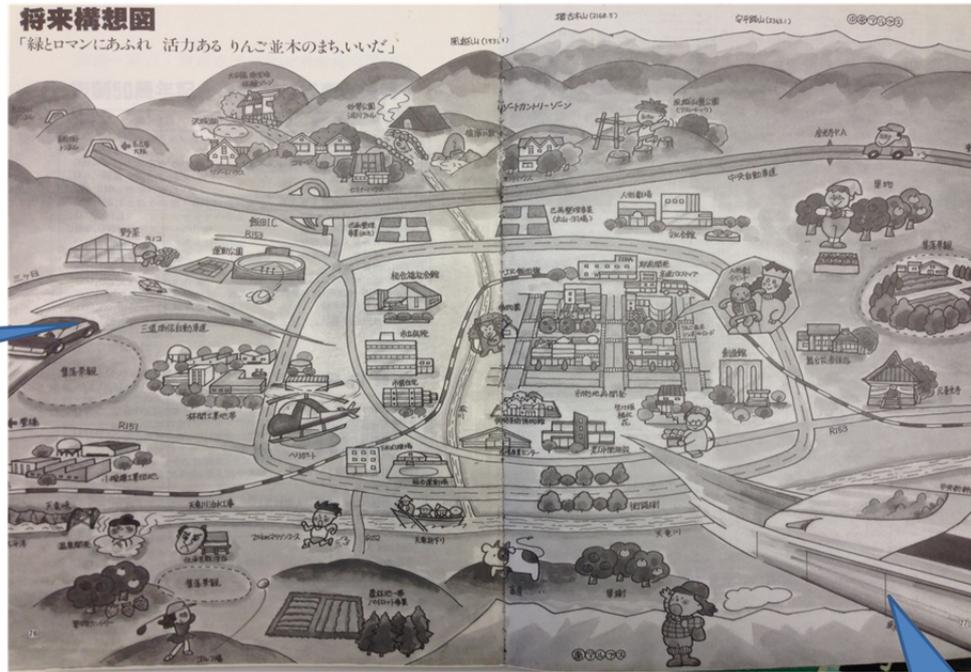
自治基本条例の精神を踏まえつつ、市民・事業者・関係団体の皆さんと共に都市の将来像を整理し、わかりやすい形で示すことで、目指すべき都市の実現に向けた各主体の活動を促進します。

② 計画期間の検討

第5次基本構想基本計画（平成19年度から平成28年度）では、基本構想の計画期間を10年、基本計画の計画期間を前期5年、後期5年と決めました。



未来構想図からのバックキャスティングとは (構想・計画の期間をどう考えるか)

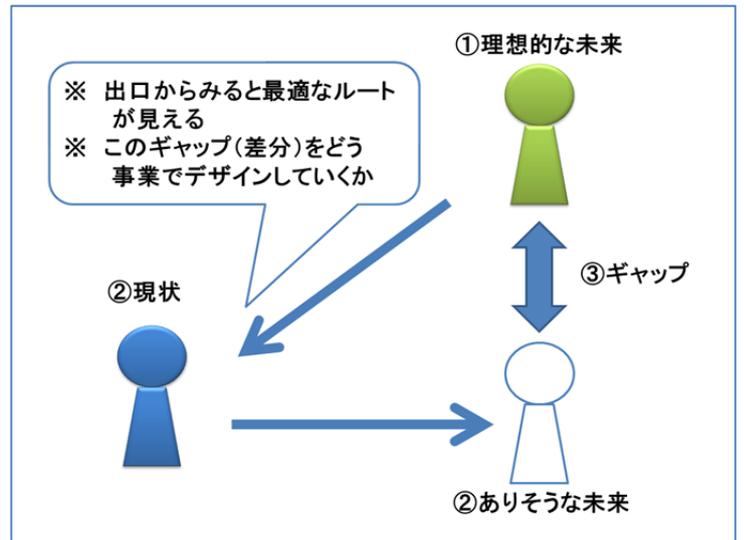


30年前の未来構想図 (第3次基本構想・基本計画)

中央新幹線

『バックキャスティング』とは
理想的な未来像から現在を眺めること
で、未来思考の事業アイデアを考える。

- ①理想的な未来を描く
- ②現状の分析やありそうな未来の予測を行う
- ③ギャップを見出す
- ④優先順位をつけて解決策を考える



③ 次期総合計画の定義と3つの心構え

【次期総合計画の定義】

○基本構想は「社会・経済構造の変化の大きな時代における飯田市の未来を「各世代が共感できる未来づくり」と「次世代に責任が持てる現在づくり」の視点を出発点に多様な主体の皆さんと共に未来の飯田を創るための大きな方向性を示すもの」として位置付ける。

○構想に基づく事業推進(計画推進)においては、その方向性や戦略あるいは課題を基本構想から導き出し、特に個別計画等における具体的な事業推進において**市民・事業者等の多様な主体との協働・共創の取組**をさらに発展させ、市政運営を図る仕組とする。

【3つの心構え】

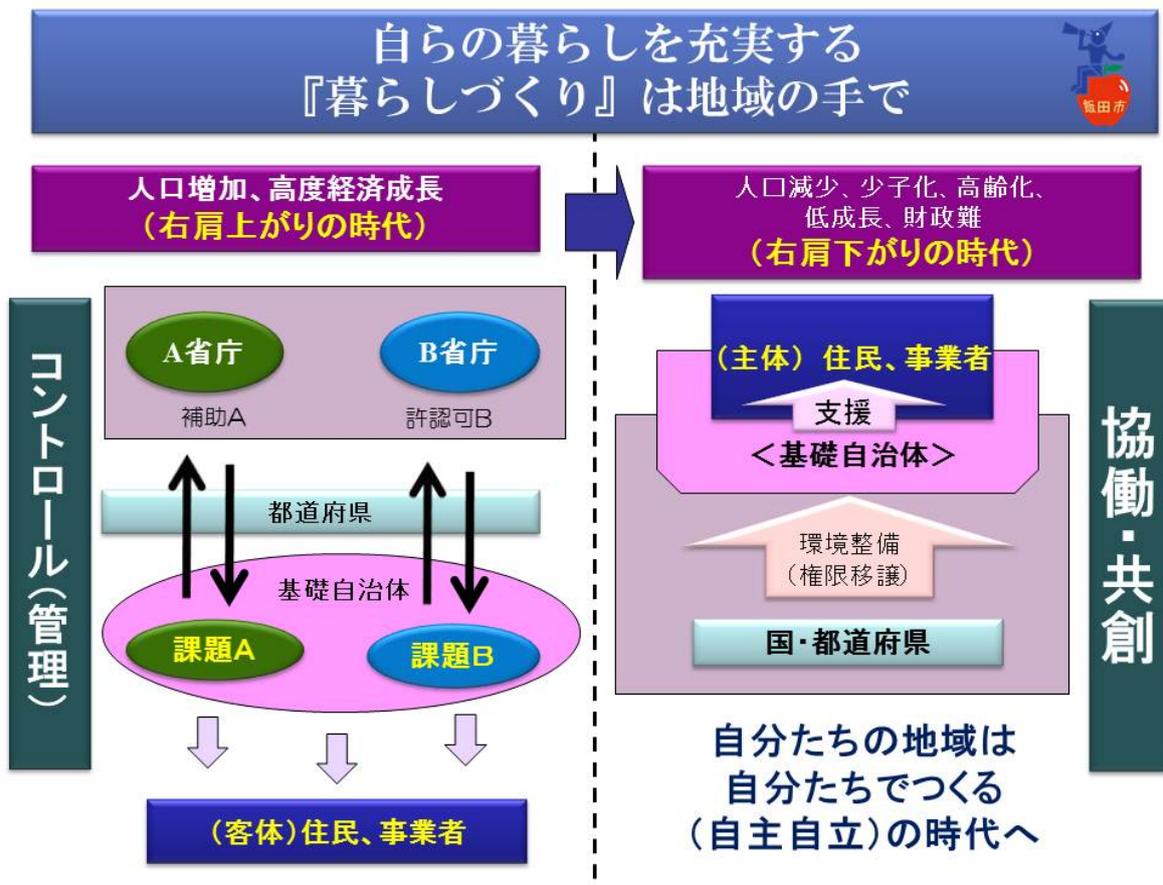
- A : 「各世代が共感できる未来づくり」と「次世代に責任が持てる現在づくり」
 B : 自らの暮らしを充実する『暮らしづくり』の主体は地域住民
 C : 既成概念を乗り越え地域の活力を引き出すための『共創の場』づくり

A : 「各世代が共感できる未来づくり」と「次世代に責任が持てる現在づくり」

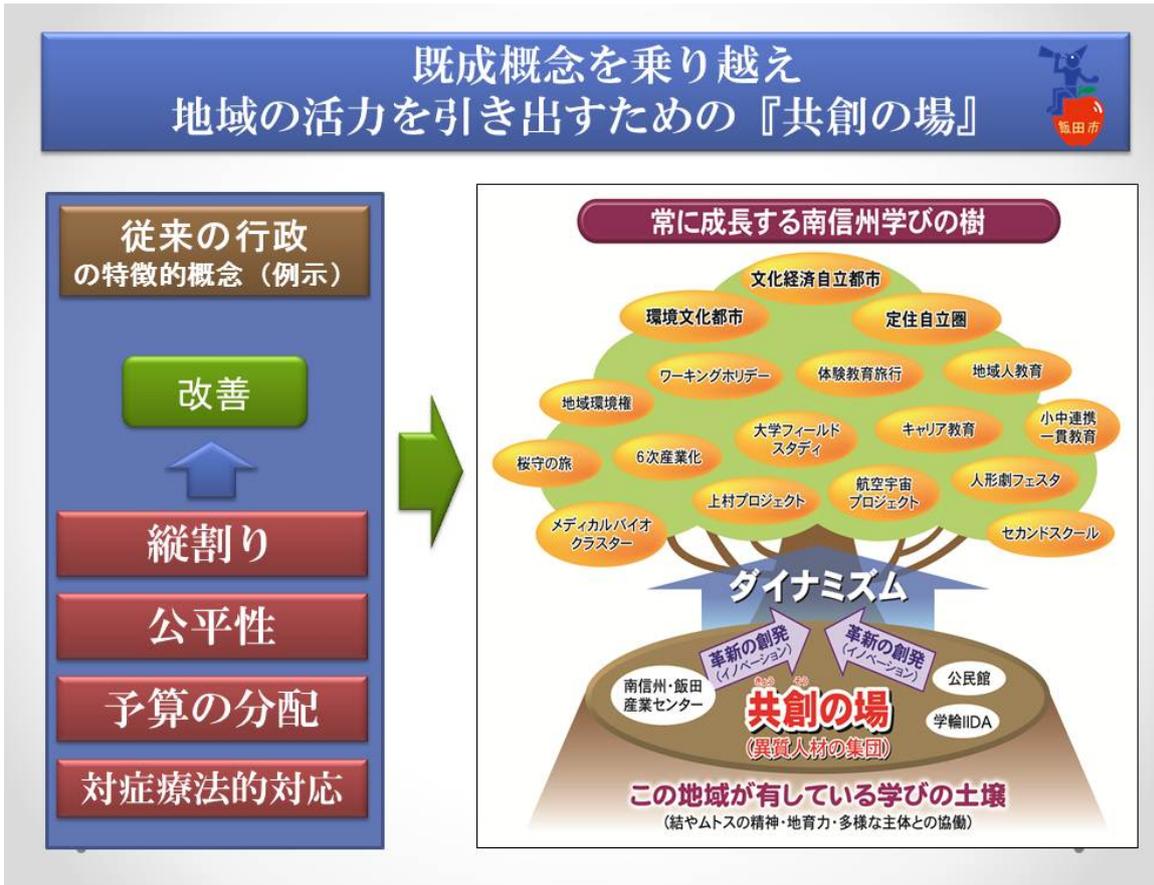
・「各世代が共感できる未来づくり」の視点は、**市民憲章**や**リニア将来ビジョン**などが示す方向を整理・強化し、時点修正も行いながら、関係する市民、事業者等の皆さんと**思いを共有し、個々の具体的な取組を喚起誘発できるもの**である。

・「次世代に責任が持てる現在づくり」の視点は、自分の子どもや孫に引き継がれる**負担や負の遺産を最小化しつつ、良いものを引き継いでいけるよう**、例えば**良い環境（環境文化都市）**や**健全で強い地域運営基盤（健全な財政、公有施設のあり方）**など、**超長期の視点**での検討を行い、具体的な取組を喚起誘発できるものである。

B : 地域住民の『暮らしづくり』を支え、協働・共創によりともに未来をつくる



C : 既成概念を乗り越え地域の活力を引き出すための『共創の場』づくり

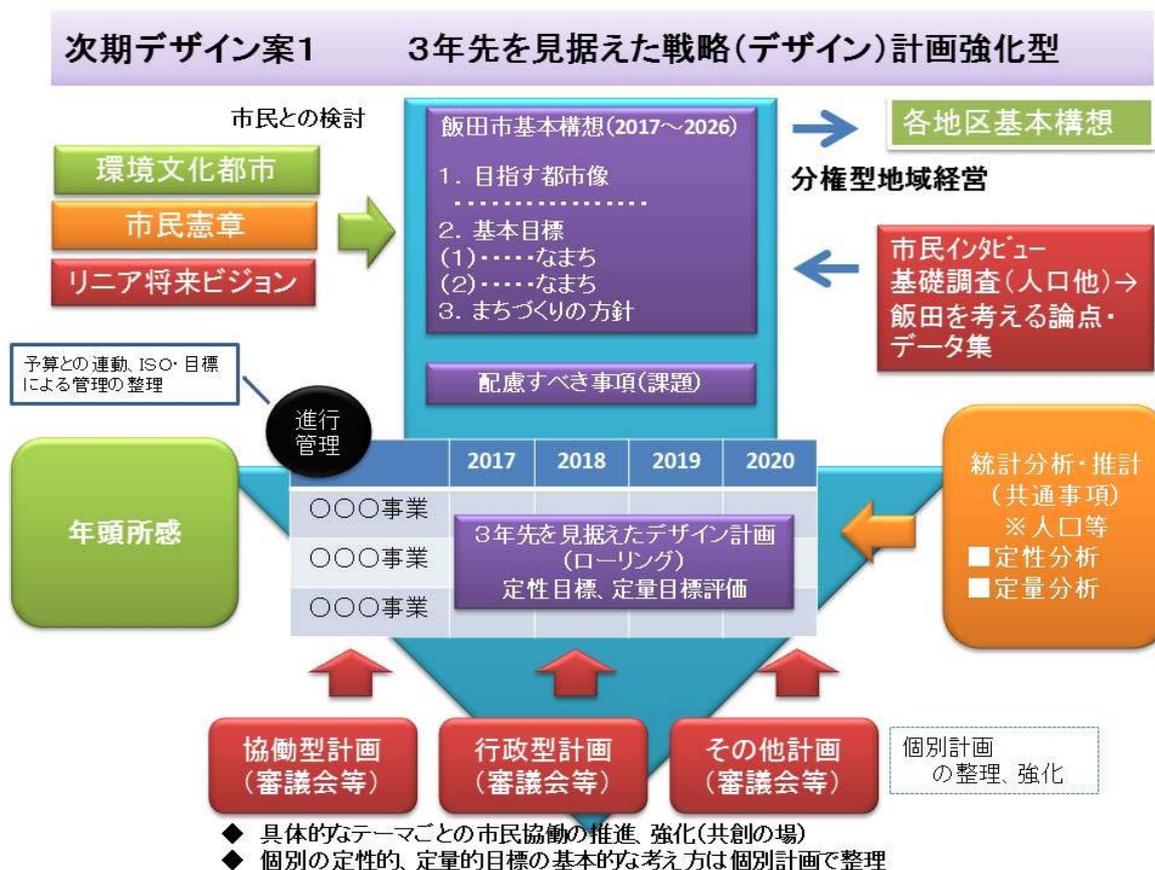


2. 計画の構成の検討

(1) 3つのモデルによる計画の枠組みの検討（検討委員会）

① 3つのモデルの検討

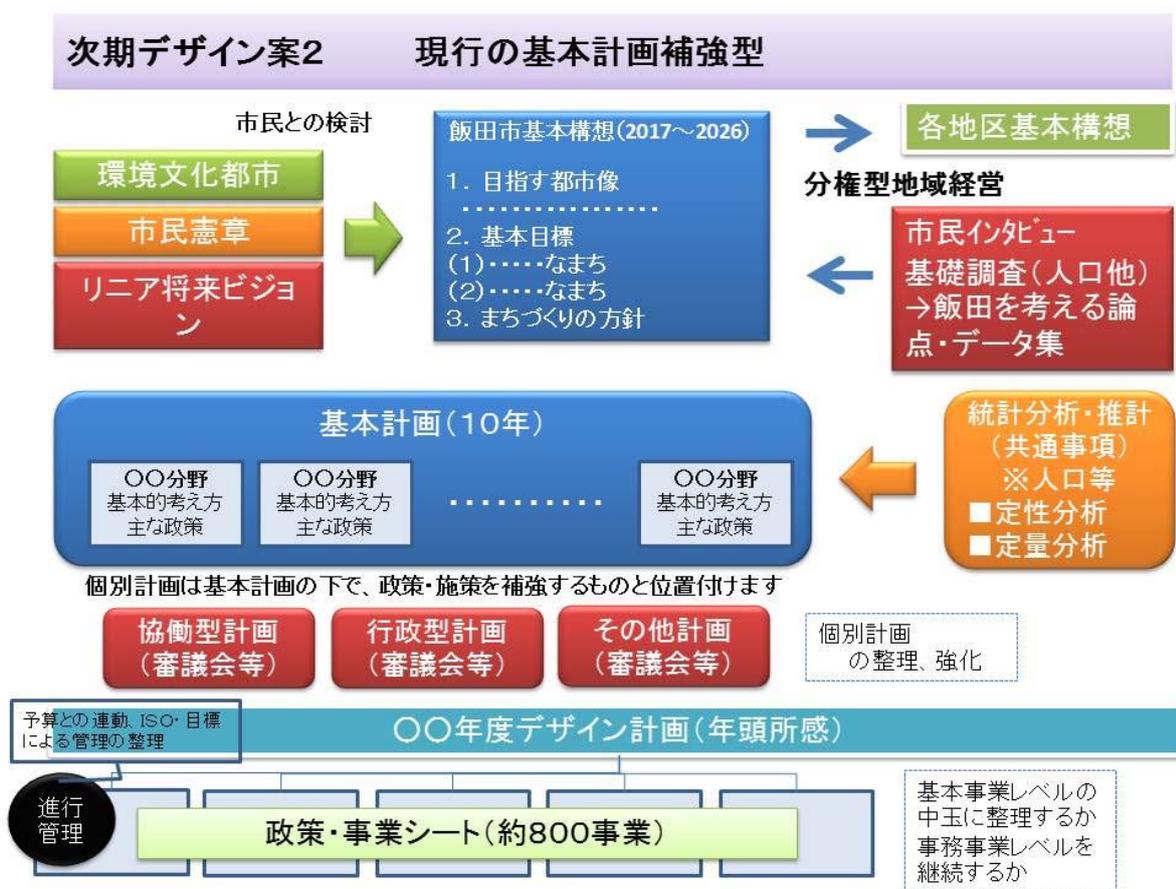
(ア) 戦略デザイン計画を核とした計画推進



中長期の構想と様々な個別計画等を集約した短期の計画の組合せにより、あるべき姿を展望しつつ、柔軟性のある市政経営を進めます。

賛成意見	改善点
<p>○構想は長期的展望を描くべきだが、計画は3年を目途として、策定・ローリングするマネジメントシステムが現実的。</p> <p>○3年先を見据えたローリングで、manifesto、個別計画等の要素を集約し、進行管理できる。</p> <p>○配慮すべき事項(課題)で、構想期間の重要要素を整理できる。</p>	<p>△構想は市民憲章を起点にリニア時代を想定したものにすべき。</p> <p>△デザイン計画は基本計画を策定しないとすれば、自治基本条例との関係の整理が必要。</p> <p>△デザイン計画は政策体系をどうするか。</p> <p>△議会の評価・役割をどうするか。</p> <p>△個別計画をどう整理するか。</p>

(イ) 現在の基本計画を補強した計画推進

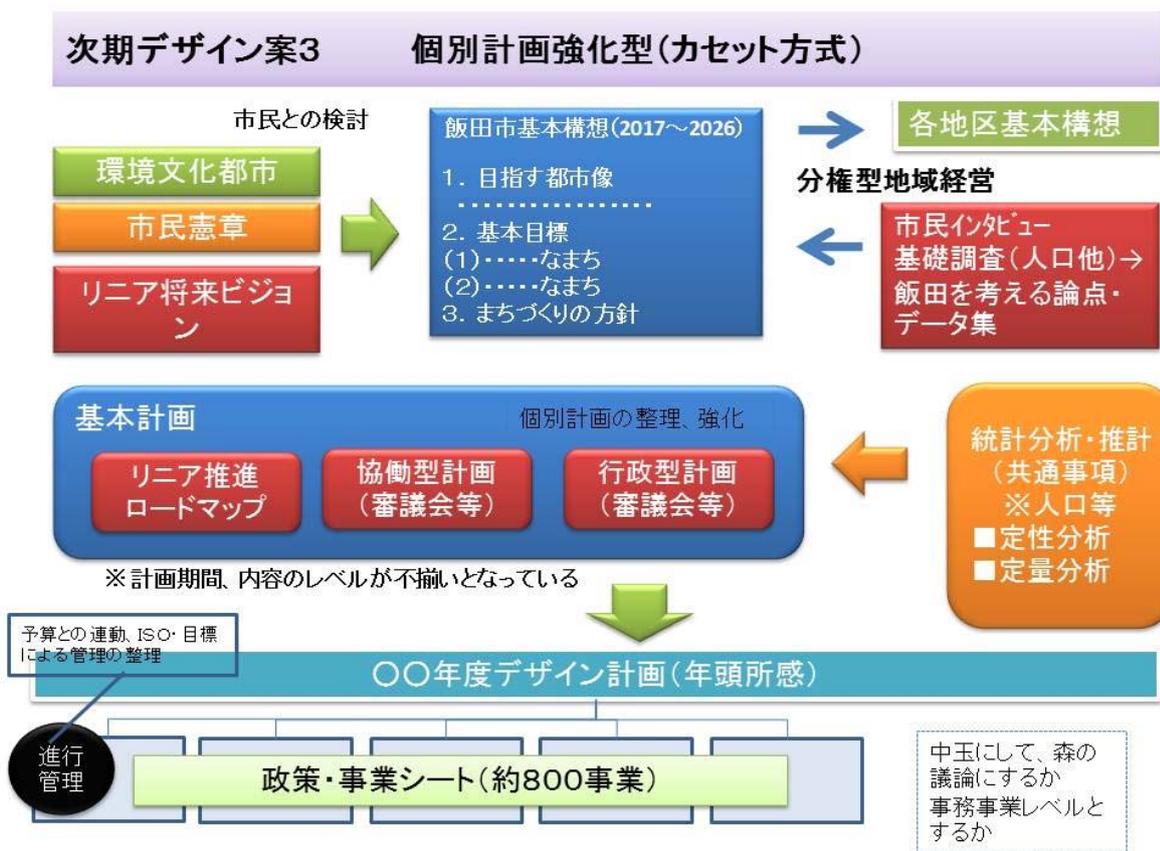


現在の基本構想基本計画の推進をベースに個別計画を整理、強化しつつ基本計画の下で政策・施策を補強するものと位置づけます。

これまでの政策施策体系に、サマーレビューなどにより、変化に対応しつつ、年度ごとの戦略計画的な意味づけも整理しながら、推進を図ります。

賛成意見	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ○マニフェストの対応ができた(第5次の経験)。 ○市民に違和感なく示せる形が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> △従来型の基本計画は策定すべきでない。先が見通せず、現時点で答えを出せるものではない。 △基本計画の10年は時代の流れに合致するかどうか疑問。

(ウ) 個別計画を整理、強化した計画推進



個別計画は、法定のものや戦略的に整理・構築されるものなど、各部門において幅広く策定されています。期間や策定方法、位置づけなどに違いがありますが、これを体系的に整理し、基本計画にカセット方式により位置づけることで、計画の二重構造を整理し、実働に合わせた展開を図ります。

賛成意見	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ○それなりに検討してつくられる個別計画を活かすべき。 ○カセット方式は妥当な選択。変化の激しい時代には、立派なビジョンづくりに手間暇かけるより、臨機応変に対応できることが求められる。 ○個別計画が基本。計画が基本構想を支える構図をつくるべき。 ○案3をベースに案1、2を組み合わせると良い。 ○個別計画の期間が異なる点が気になるが、調整すれば形になる可能性はある。 	<ul style="list-style-type: none"> △個別計画に含まれない事務事業も多くある。これを解消するために、個別計画から転記したものに、個別計画に含まれない事務事業を加えて、3ヶ年計画をつくる(案1の複数年度のローリングを加える)。 △個別計画の進行管理だけでは全体を俯瞰できず、政策の濃淡や財政のボリュームも見えない。 △リニア将来ビジョン、ロードマップとの関係の整理。 △マニフェストをどう反映するか △政策・事業シートはもう少し大きな視点でまとめて、個別の細かな事業は省略すべき。 △市民、議会の役割の再確認。

② 個別計画の位置づけの検討

飯田市の各分野の分野別個別計画は多数あり、その性質も様々です。最近でも、国の政策「まち・ひと・しごと」に関連した地方人口ビジョン、国土のグランドデザイン 2050 に向けた広域地方計画の見直しの動き、国土利用計画飯田市計画、広域計画、飯田市観光振興ビジョンや飯田市公共施設マネジメント基本方針など、各分野における構想・計画あるいは関連する方針・指針などは常に変化しています。

目指す都市像に向けて、こうした分野別の計画を踏まえるとともに、個別計画にない分野の取扱いの整理などの考え方と位置づけの検討が必要となります。



【地方版総合戦略と次期総合計画について】

平成 27 年度に策定する地方創生に係る「地方版 総合戦略」については、人口減少、少子高齢化に対応する「まち・ひと・しごと創生」であり、次期総合計画と視点、方向性は同じであることから双方をできるだけ重ね合わせて効率的に策定を進めます。

地方版総合戦略は 5 年計画であり、現在国から示されている事例を見ても、この個別計画群に位置づく規模と想定しております。

次期総合計画は長期展望に立ったみんなが共有できる「未来」を大切にしながらビジョンづくりを進めます。

(後編) 課題を踏まえた次期総合計画の枠組み

1. 課題を踏まえた次期総合計画の枠組み

(1) 基本的な考え方（ムトスの精神を引き継ぎ、さらに協働を進める）

「飯田市未来ビジョン」をもって、目指す都市像を明らかにし、これを目指して行政、市民、事業者、各種団体、議会ほか多様な主体が役割を担っていきます。

ビジョンの具現化を目指し、「都市経営戦略（4年）」、個別計画、年度ごとの戦略デザイン計画により、計画的な事業推進を図ります。

市民や地域、事業者をはじめ多様な主体の皆さんは、飯田市未来ビジョンの目指す姿を実現すべく、各立場・担当する分野において具体的な役割を發揮します。また、個別計画の推進においても、ビジョンの示す「目指す都市像」の実現に向けて、具体的な取組を定めて事業を進めます。

(2) 基本的な構成



① 飯田市未来ビジョン（基本構想）（超長期の30年先を見据えた中の12年）

時代認識、飯田のまちづくりの総括、めざす都市像（都市像、基本目標、基本目標実現のための主要な課題）、まちづくりの方針

② 都市経営戦略（4年）

分野ごとの基本的考え方、基本的な政策

③ 戦略デザイン計画（1年）

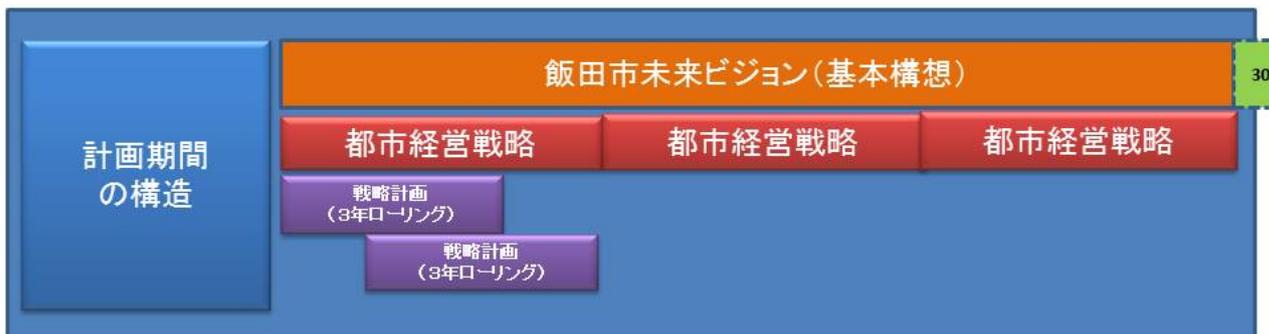
「重点戦略」「分野別計画（個別計画等の要素集約）」

(3) 計画期間について

計画期間については超長期（約 30 年）を視野に「各世代が共感できる未来づくり」と「次世代に責任が持てる現在づくり」の視点で、あるべき姿を検討しながら、リニア開通予定の 2027 年の翌年までの 12 年間に計画期間とし、具体的な事業推進を図ります。

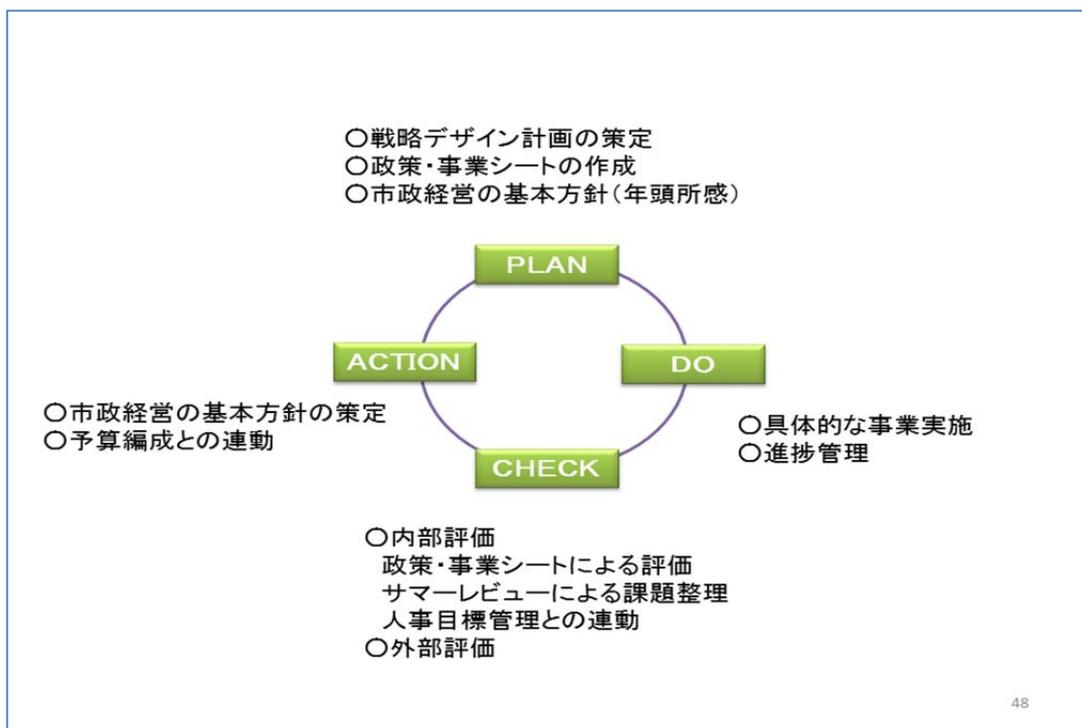
次期総合計画の計画期間

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	
策定 方法決定	策定													
	第5次 まとめ													
													リニア 開通	



(4) マネジメントサイクルの検討

総合計画、財政計画、人事計画などの連動を進めます。進行管理については次期総合計画がどのような設計になっていくかを勘案しながら、平成27年度、行財政改革推進本部会議において第5次基本構想における進行管理のあり方を基に改善点を検討し、効率性・実効性の高い進行管理を目指します。



(5) (仮称) 戦略デザイン計画を核としたマネジメントサイクル

次期総合計画の推進においては、変化に柔軟に対応するため、分野別の個別計画を整理し、推進を図るとともに、これを踏まえ、個別計画で想定されていない領域を補完しつつ「戦略デザイン計画」を毎年策定します。これにより計画と組織、予算を連動しながら、(仮称)「政策・事業シート」を作成し、PDCAサイクルによる経営資源の重点化や政

策・事業のスクラップアンドビルドを推進します。

中長期の視点を整理し、市民や事業者の皆さんと共有するとともに、これを実現するための協働の視点を踏まえた計画推進により、ぶれずに、しかも柔軟性のある市政経営を進めていきます。

2. 策定の進め方

(1) 飯田市未来ビジョンの策定

① 概要 「飯田市未来ビジョン（基本構想 12年）～みんなの声と力がまちになる～」

社会経済情勢の変化の激しい中で、現在既に策定されている構想・計画類を「次世代に何を残すか（守るべきもの、備えるべきもの）」、「どのようなまちになりたいか」という超長期（30年程度）で普遍的な視点により整理し、これを踏まえて当面、リニア中央新幹線開通の2027年（平成39年）の翌年2028年（平成40年）を見据えた構想として飯田市未来ビジョン（飯田市基本構想）を策定します。

市民、議会、事業者、団体の皆さんとともに将来の姿を創り、共有し、各々の主体的な役割分担と取組による協働を目指します。

② 具体的な取組項目

ア) 未来をつくる統計分析力、推計力の確立、強化

庁内の若手によるプロジェクトを編成し、学輪IIDAなどの協力を得て、分析、推計等、各分野における傾向を整理し、市民をはじめ多様な主体の皆さんと共有し、ビジョンづくりや進行管理に生かします。

A 人口分析等基礎調査（平成27年度）

B 市民意識調査の実施

・無作為抽出による市民意識調査

・ビッグデータ、インターネット調査等新しい調査手法の確立

C その他飯田市に係る統計類の専門機関による2次分析

定量的評価を補完し、戦略的な市政運営をはかるため、統計分析を強化します。

イ) みんなの夢を形にする

～「各世代が共感できる未来づくり」と「次世代に責任を持てる現在づくり」～

A 現在ある構想、計画類の見える化

庁内ワーキングにより、現在ある計画類の位置づけの整理と見える化を進めます。

B 幅広い市民の意識の共有化と協働の具体的推進

■ 市民インタビュー

各分野で活躍する市民から100名抽出（性別、年齢層、地区、分野のバランスに配慮）し、インタビューを実施。これを（仮称）未来デザイン会議やその後の策定につなげます。（庁内若手ワーキングによる論点整理）

■ 次世代の意見交換

高校生による討議を市民活動の力（飯田ウェーブなど）と協働して実施します。

■ 未来スケッチコンテスト

30年先の未来構想図のコンテストを実施し、理想とする未来を描き、バックキャストによる基本構想策定の参考とします。

■ 地区懇談会、パブリックコメント

各地区との懇談会やパブリックコメントなどで、広く意見を集約しつつ、協働社会を進めます。

■ 構想を実現するエンジンづくり

ムトス飯田×飯田版TED（意見発表会） 参考：※1、※2、※3

ムトス飯田の精神を発展させ、多様な主体による自立的な地域づくりをさらに進めるためのエンジンとなるような有言実行の機会をつくり出します。

地域の経済人や学輪いいたに集う大学関係者をはじめ、地域内で将来を示唆する取組を中心になって行っている人、あるいは地域にゆかりの各界で活躍する人の考え方や体験談を学び、今後の飯田市の地域づくりを考え、飯田市未来ビジョンの実現に向けた様々な取組を誘発する場づくりを進めます。

※1 ドイツ（オッフエンブルグ）のまちづくり

市民が集い、市の方向性について提案し合い、それをその場で秤（はかり）を使った投票により方向性を決めていく。市民による提案と市民による方向性の判断の事例だが、「選べる将来の選択肢」を提示して、具体的に検討しながら、市民協働をさらに進めるための仕組みづくりの参考の一つとなるもの。

※2 TEDカンファレンス(TED conference)

TED (Technology Entertainment Design) の活動の中心的イベントで、アメリカのカリフォルニア州ロングビーチ（2013年まで）で年1回開催される講演会のこと。カンファレンスは4日間にわたって開催され、この間約70人の演者が登場し、2000人程の聴衆が講演を聴く。

※3 やねだん

やねだん故郷創世塾谷（やねだん）は、鹿児島県肝属平野に位置し、集落ぐるみで豊かな生き方を目指す小さな「むら」。土着菌を活用した環境保全型農業や生きた福祉活動が高く評価され、第8回「計画賞」の最優秀を受賞している。

(2) 具体的な事業推進

① 概要

ア. 都市経営戦略（4年）

飯田市未来ビジョンの目指すべき将来像を、市民、事業者をはじめ多様な主体の皆さんと目指す中で、行政が何を担うのかを「都市経営」の視点で整理します。4年間に配慮すべき事業（大規模事業など）や重点的な取組の方向性をまとめます。

イ. 個別計画の推進（各計画の期間）

市民・事業者の皆さんとの協働は、具体的に関係するテーマごとに進めます。なお、飯田市の個別計画は多数ありますが、各主体の関わりなどについて確認し実行性を高めます。

ウ. 各年度 戦略デザイン計画（1年）

リニア推進ロードマップをはじめ、個別計画や関連する計画を踏まえて、市政経営の方針とともに、重点分野や戦略的に取り組む分野を整理し、各年度の戦略デザイン計画を策定し、これをPDCAサイクルで進行管理します。

(3) 策定体制

策定組織	主な役割	構成	備考
市議会	飯田市未来ビジョン（基本構想）の議決 委員会等における意見 戦略デザイン計画（1年）による進行管理の評価	議会	
基本構想審議会	飯田市未来ビジョン（基本構想）の審議	各分野の代表者、公募委員、学識経験者	
未来デザイン会議（策定委員会）	飯田市未来ビジョン（基本構想）の作成 計画推進案の意見、承認	各分野の実務者、公募委員、学識経験者	
庁内策定委員会（部長会）	次期総合計画の検討	部長	
庁内WG（課長）	計画推進案の作成 各部局の計画、考え方の調整	課長	
庁内若手WG	統計・論点整理		
事務局	全体運営・調整 各種庶務	企画課	

(4) 策定スケジュール

26年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全般				■策定方針案の検討							■準備		
議会												◎議会説明	
基本構想 審議会													
未来 デザイン 会議 (策定委員会)													
庁内策定 委員会 (部長会)													
庁内 デザイン WG(課長)													
庁内若手 デザインPJ												□ 庁内PJ準備	
事務局 (総合 政策部)				◎策定方針案の検討				◎次年度計画整理・予算					

27年度(地方創生・飯田市総合戦略、飯田市未来ビジョン策定)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全般	■策定準備、基礎資料等調整、人口ビジョン・地方版総合戦略策定、飯田市未来ビジョン策定 ■進行管理の課題調整・検討											
議会			◎議会報告 (策定状況)			◎議会報告			◎議会報告			◎議会報告
基本構想 審議会						○審議	○審議 (人口フレーム等)	○審議				
未来 デザイン 会議 (策定委員会)	○地方創生総合戦略 分野別意見交換会 (産学官金労)			○会議 策定方針 有識者ブレ パネルディスカッション	○会議 分析発表 構想検討	○会議 分析検討 構想検討				未来構想図コンテスト		○会議 ビジョン (たたき台) 検討
庁内策定 委員会 (部長会)	○検討			○検討			○検討					○検討
庁内 デザイン WG(課長)				●会議 策定方針 個別計画の整理			●会議 論点・統計					●会議 ビジョン(たたき台) 検討
庁内若手 デザインPJ	統計分析、推計・論点整理											
	□第1回 基礎学習 (事業構想)	統計分析・推計 市民意識調査 市民インタビュー		学輪いした等の 講師による学習会(庁内PJ主催)			□論点・統計 分析推計 まとめ	□デザイン会議 分析発表				
事務局 (総合 政策部)			■未来デザイン 会議委員選考									

28年度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全般	■飯田市未来ビジョン(基本構想)の策定								■都市経営戦略(4年)の策定			■戦略デザイン計画(1年)策定・予算	
議会			◎議会報告			◎議会報告 ビジョン(素案案)			◎議案審議 ビジョン(案)	◎確定	◎都市経営戦略 戦略デザイン計画 予算		
基本構想 審議会	○審議				○審議								
未来 デザイン 会議 (策定委員会)		○会議 ビジョン(素案) 検討①		○会議 ビジョン(素案) 検討②									
庁内策定 委員会 (部長会)	○検討				○都市経営戦略 戦略デザイン計画の策定準備			◎都市経営戦略 戦略デザイン計画の策定					
庁内 デザイン WG(課長)	検討・調整												
庁内若手 デザインPJ													
事務局 (総合 政策部)							■パブリック コメント			■印刷デザイン ①公共計画 ②戦略デザイン計画 (行政計画)			

29年度												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全般	■次期総合計画始動(新基本構想、都市経営戦略、平成29年度デザイン計画)											
	■市政80周年											
議会			◎前基本構想まとめ報告									
基本構想 審議会												
未来 デザイン 会議 (策定委員会)												
庁内策定 委員会 (部長会)												
庁内 デザイン WG(課長)												
庁内若手 デザインPJ												
事務局 (総合 政策部)												